

経営比較分析表（平成30年度決算）

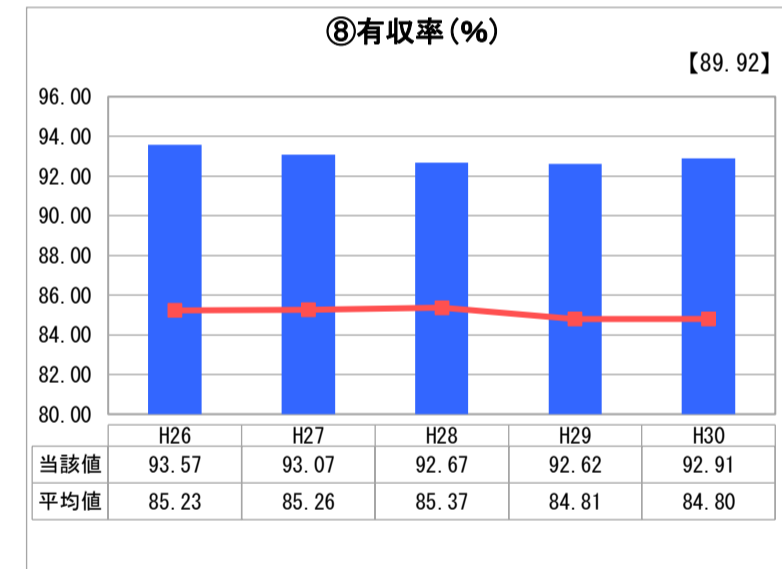
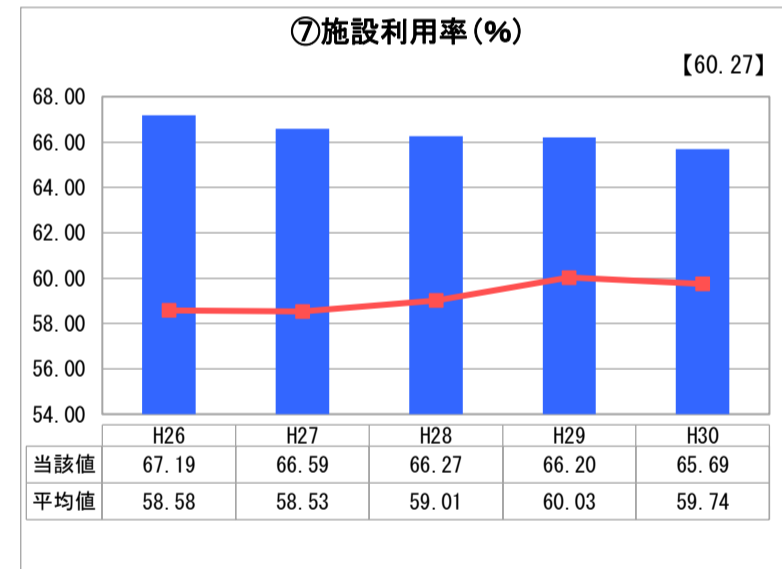
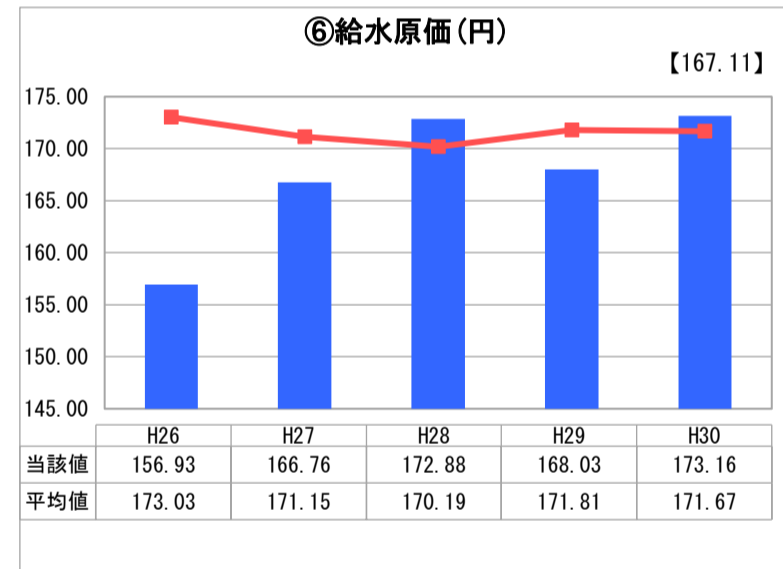
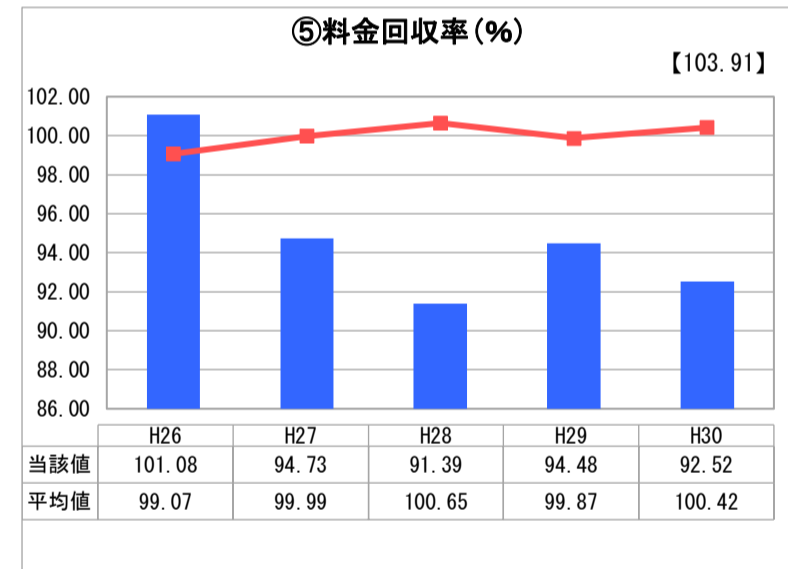
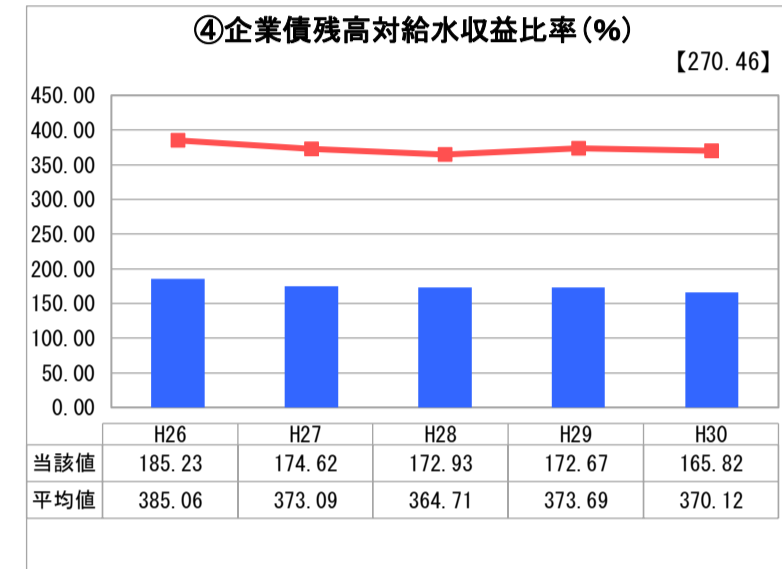
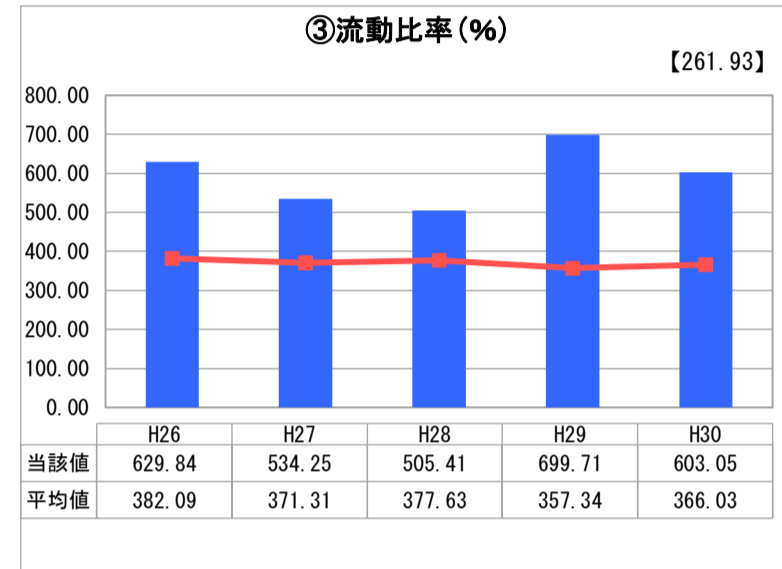
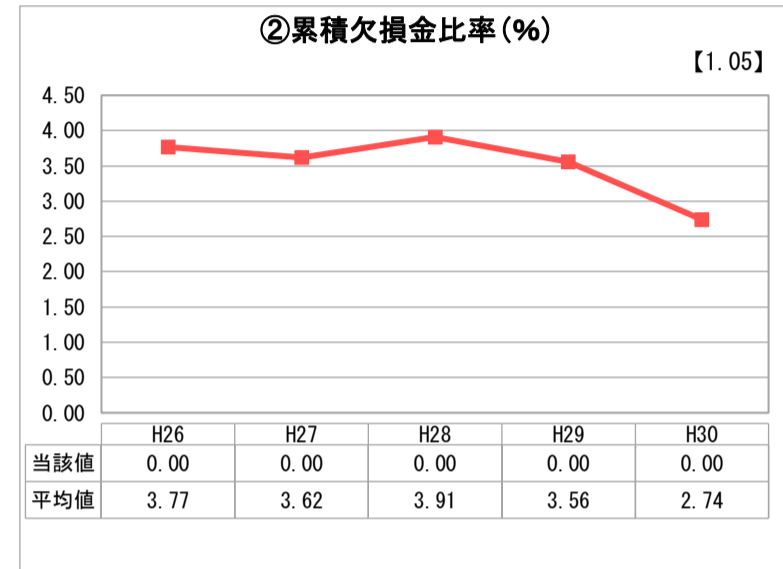
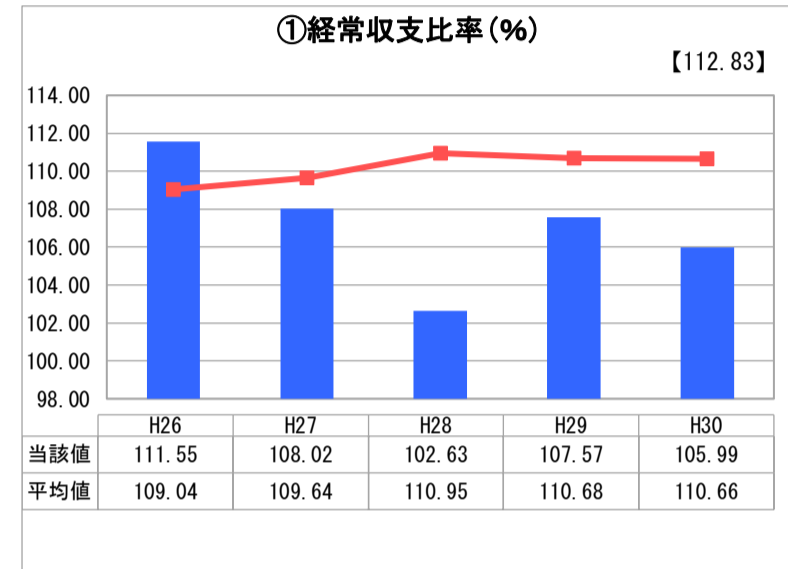
埼玉県 杉戸町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.10	99.94	2,754	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,117	30.03	1,502.40
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
44,978	30.03	1,497.77

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

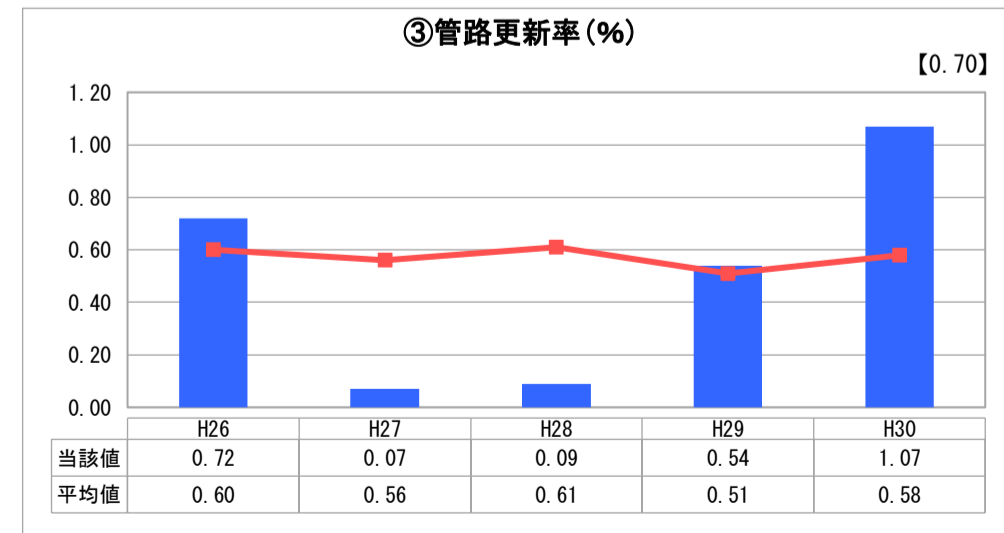
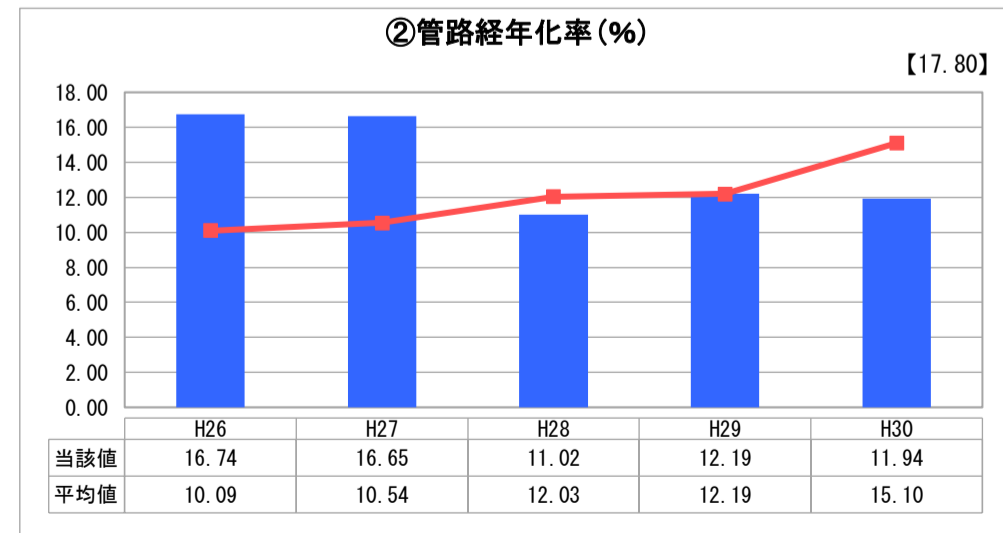
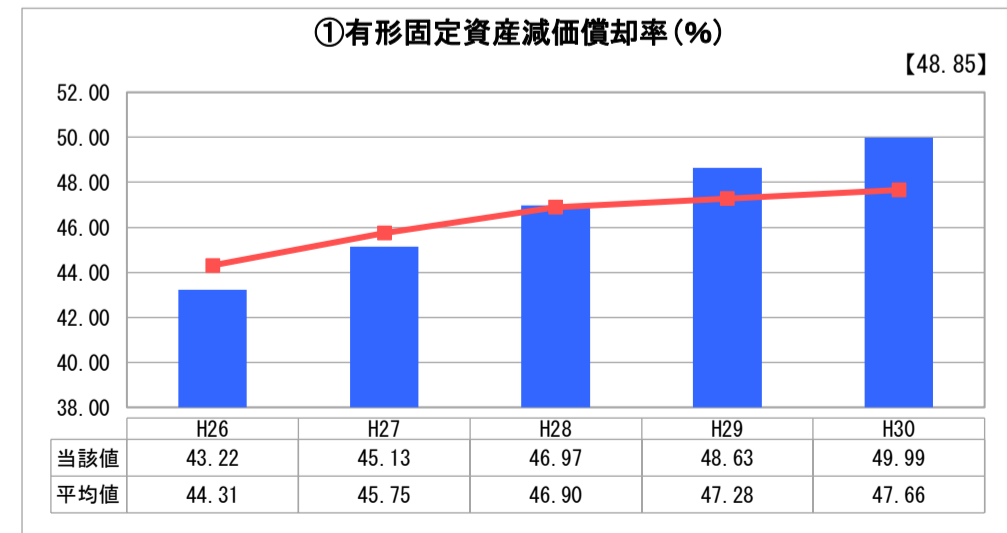
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支は赤字が続いていたが、H26年度から、会計制度の変更により黒字となっている。しかし、有収水量の減少により類似団体平均値を下回っており、営業収支の改善が必要である。
 ② 純損失については剰余金の取崩で対応をしているので、繰越欠損金は発生していない。H26年度からは純利益が生じており、累積欠損金は発生しなかった。
 ③ 流動比率については、平均値を上回っており、100%を上回っているため、短期的な債務に対する支払能力は十分である。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は平均を下回っており、一定水準を保っている。
 ⑤ 料金回収率はH26年度を除き、100%を下回っている。料金収入では賸えず、他の収入に依存している。
 ⑥ 給水原価については、平成28年度より施設の更新・耐震化を計画的に実施しているため、給水原価が上昇傾向にある。
 ⑦ 施設利用率は平均を上回っており、十分な水準を有している。
 ⑧ 有収率は、平均を上回っており、十分な漏水対策の効果が表れている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は平均をやや上回っており、施設や管路の老朽化が進んでいる。
 ② 管路経年化率は平成25年度に再調査し、実績値を把握して、積極的に更新事業を実施したことで平均値と同程度まで改善した。
 ③ 管路更新率は年度によりばらつきがあるが、施設の更新・耐震化を計画的に行っており、全体的な投資額の中で着実な管路更新を実施している。

2. 老朽化の状況



全体総括

給水原価が供給単価を上回っており、料金回収率が100%を下回っている。また、平成9年度を最後に料金の見直しを実施していないことから、今後は、供給単価と給水原価の乖離及び老朽管の更新に対して財源確保を勘案し、料金の見直しを検討する予定である。